

印刷年月日：2019年11月11日  
初版年月日：1993年03月18日  
改版年月日：2019年10月29日

# 安全データシート

SDS No. 24964

## 1. 化学品及び会社情報

製品名：**クリンファイト R**

会社名：**栗田工業株式会社**  
住所：**東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパークイースト**  
担当部門：**品質保証部**

電話番号：**03-6743-5020**  
FAX番号：**03-3319-2026**

緊急連絡先：**栗田工業㈱**  
緊急連絡先電話番号：**06-6228-4865**  
推奨用途及び使用上の制限：**密閉循環系用冷却水処理剤**  
\* 通常のお問い合わせは、緊急連絡先へお願いします。

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

健康有害性	
急性毒性(経口)	区分3
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B
皮膚感受性	区分1
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分2
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2
環境有害性	
水生環境有害性(急性)	区分2
水生環境有害性(長期間)	区分2



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
飲み込むと有毒(経口)  
皮膚刺激  
眼刺激  
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
発がんのおそれの疑い  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
臓器の障害  
長期又は反復暴露による臓器障害恐れ  
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き  
安全対策

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
取扱後はよく手を洗うこと。  
保護手袋を着用すること。  
汚染された作業着は作業場から出さないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。

応急措置

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。  
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
このラベルの指示に従った特別処置が緊急に必要な場合。  
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズが容易に外せる場合には外すこと。  
取り扱った後、手を洗うこと。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
ばく露またはその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
漏出物を回収すること。

保管  
廃棄

確実に保管すること。紛失・盗難に気をつけること。  
都道府県の認可を受けた廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

## 3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別:	混合物		
化学名又は一般名	化学式		含有量(%)
ヒドラジン-水和物	N <sub>2</sub> H <sub>4</sub> ·H <sub>2</sub> O		1~10
マレイン酸系ポリマー	非開示		非開示
トリエタノールアミン	(HOCH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> ) <sub>3</sub> N		0.1~1.0
ジエチレングリコールモノメチルエーテル	非開示		非開示
有機窒素系銅用防食剤	非開示		非開示
アクリル酸系ポリマー	非開示		非開示
N-メチル-2-ピロリドン	C <sub>5</sub> H <sub>9</sub> NO		1~10
亜硝酸ナトリウム	非開示		非開示

化学名又は一般名	化審法番号	CAS No.	安衛法番号
ヒドラジン-水和物	1-374	7803-57-8	
マレイン酸系ポリマー	非開示	非開示	
トリエタノールアミン	2-308	102-71-6	公表化学物質
ジエチレングリコールモノメチルエーテル	非開示	非開示	
有機窒素系銅用防食剤	非開示	非開示	
アクリル酸系ポリマー	非開示	非開示	
N-メチル-2-ピロリドン	5-113	872-50-4	
亜硝酸ナトリウム	非開示	非開示	

危険有害不純物	分析結果	検出限界	分析方法
総水銀 (Hg)	検出せず	0.01mg/kg Hg	還元気化原子吸光光度法
ヒ素 (As <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	検出せず	0.1mg/kg As <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	DDTC-Ag吸光光度法
鉛 (Pb)	検出せず	0.05mg/kg Pb	原子吸光光度法
シアン (CN)	検出せず	1 mg/kg CN	ピリジンピラゾロン吸光光度法
総クロム (Cr)	検出せず	0.5mg/kg Cr	ジフェニカルバジド吸光光度法
カドミウム (Cd)	検出せず	0.01mg/kg Cd	原子吸光光度法

備考 危険有害不純物のデータは、成分からの推定値である。

## 4.応急措置

◆情報◆	
吸入した場合	液体品であり吸入によって急性毒性を起こすほどの危険性は少ない。 多量に吸入すると、吐き気・呼吸困難を起こすことがある。 空気の新鮮な場所に移し、安静・保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	皮膚に付くと炎症を起こすことがある。 触れた部位を、多量の水で洗い流す。 汚染した衣服は直ちに脱ぎ、衣服と皮膚に付着した薬品を、多量の水で洗い流す。 炎症、痛みなどが残れば、医師の手当を受ける。
眼に入った場合	眼に入ると、刺激を与え痛みを起こすことがある。 直ちに、流水で15分以上洗眼し、その後必ず医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	中毒症状により、嘔吐・腹痛・下痢などを起こす。 直ぐに医師の治療を受けて下さい。もし飲み込んだ場合は、医師の指示があるまで無理に嘔吐させない。

## 5.火災時の措置

消火方法	引火点はないが、高温にさらされると、N <sub>2</sub> O <sub>3</sub> などの有害ガスを発生することがある。
消火剤	水、粉末消火剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	

## 6.漏出時の措置

漏出時の措置	大量に漏洩した場合は、できるだけ容器に回収する。 少量の漏洩の場合はウエスで拭き取り、水で洗い流す。拭き取ったウエスは水でよく洗った後廃棄する。(そのまま放置すると発火することがある。)
除去方法	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	

## 7.取扱い及び保管上の注意

## 【取扱い】

吸い込んだり、眼・皮膚に触れないように、保護マスク・保護眼鏡・長袖の作業衣・ポリ塩化ビニル製あるいは合成ゴム製の手袋等を着用して作業すること。  
 薬注タンク等はフタをし、薬品の薬注タンクへの移し換えには移送ポンプを使用する。  
 できるだけ屋外等の通気性の良い環境で作業する。  
 連続的にばく露される可能性の高い作業環境では局所排気装置等を設置し、換気をよくする。  
 酸との混合を避けること。  
 使用済みの容器を飲料用、その他の用途に使用しないこと。

## 技術的対策

安全取扱注意事項、接触回避

## 【保管】

安全な保管条件  
 安全な容器包装材料

使用時以外は直射日光を避け、換気のある冷暗所に密閉保管する。

## 8.ばく露防止及び保護措置

## 管理濃度

設定されていない

## 許容濃度

ヒドラジン-水和物 設定されていない  
 (ヒドラジンとして、労働安全衛生法第28条3項に基く、基発第0331008号(平成18年3月31日)に基く  
 管理濃度:0.13mg/m<sup>3</sup>)

ヒドラジン-水和物:

日本産業衛生学会(2009年)0.21mg/m<sup>3</sup> 0.1ppm

ACGIH(2009年)設定されていない

(ヒドラジンとして)

日本産業衛生学会(2009年)TLV-TWA 0.13 mg/m<sup>3</sup> 0.1 ppmACGIH(2009年)TLV-TWA 0.013mg/m<sup>3</sup> 0.01ppm)

## 設備対策

(注)TLV-TWA:1日8時間、1週間40時間の労働時間内の時間荷重平均暴露許容濃度の勧告値  
 管理・許容濃度以上の作業環境では局所排気装置を設置する。

## 保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

保護マスク着用

ポリ塩化ビニル製あるいは合成ゴム製の手袋着用

保護眼鏡着用

長袖の作業衣着用

## 9.物理的及び化学的性質

色

淡黄色～黄褐色

形状

液体

臭い

pH

7.2～9.2(20℃)

融点・凝固点

-20℃以下

沸点、初留点及び沸騰範囲

引火点

なし

爆発範囲 上限 下限

爆発範囲上限:

爆発範囲下限:

蒸気圧

比重

1.24～1.28(20℃)

溶解度

水:任意

n-オクタノール／水分配係数

自然発火温度

分解温度

CODMn量

7.7%

BOD

全窒素含有量(T-N)%

8.0

全リン含有量(T-P)%

0.1未満

その他データ

成分が極く微量変化し、外観が褐色～暗褐色に変色する場合がありますが、性能、安全性には影響が  
 ありません。

## 10.安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

特定条件下で生じる危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

## 11.有害性情報

急性毒性	LD50:ラット(経口):251mg/kg(成分からの計算値)より(GHS分類)区分3となる。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚に付くと炎症を起こすことがある。ヒドラジーン水和物の厚生労働省分類により(GHS分類)区分1⇒区分2(濃度限界5%未満)となる。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼に入ると、刺激を与え痛みを起こすことがある。ヒドラジーン水和物の厚生労働省分類により(GHS分類)区分1⇒区分2(濃度限界5%未満)となる。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	皮膚感作性 GHS区分1である。ヒドラジーン水和物の厚労省分類「-」による。
生殖細胞変異原性	ヒドラジーン水和物の厚生労働省分類(GHS分類)区分2とした。
発がん性	ヒドラジーンは、IARC(国際癌研究機関)で「グループ 2B」にランク付けされている。「グループ 2B」:おそらく発がん性がある物質で証拠が比較的十分にない物質
生殖毒性	亜硝酸ソーダの厚生労働省分類により(GHS分類)区分2となる。
特定標的臓器毒性、単回ばく露	ヒドラジーン水和物の厚生労働省分類により(GHS分類)区分1となる。
特定標的臓器毒性、反復ばく露	ヒドラジーン水和物の厚生労働省分類により(GHS分類)区分1⇒区分2(濃度限界10%未満)となる。
吸引性呼吸器有害性	
その他の有害性	ヒドラジーン:労働省から、「変異原性が認められた化学物質」として告示された。(基発第341号)

(注)「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」は、労働者への暴露を低減するため、必要に応じて作業環境の改善や保護具の使用、暴露時間の短縮等の措置をより徹底するために示された。

## 12.環境影響情報

生態毒性	LC50:ヒタカ(48h) 63mg/L 水生環境有害性(急性):区分2である。 急速分解性が不明なため水生環境有害性(長期間)も区分2とした。
残留性・分解性	
生体蓄積性	
土壤中の移動性	
オゾン層への有害性	

## 13.廃棄上の注意

(残余廃棄物)の廃棄上の注意	直接排水溝には絶対流さないこと。
(汚染容器・包装)の廃棄上の注意	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理すること。 空容器は、内容物を十分に排出し、口栓を確実に閉じてから産業廃棄物業者に処分を委託する。 リターナブル缶の場合、廃棄せず返却してください

## 14.輸送上の注意

国際規制によるコード及び分類に関する情報	国連分類:758 国連番号:2030
容器等級	
海洋汚染物質	
海上輸送コード(IMDGコード)	
航空輸送コード	
その他	容器が破損しないようにし、水ぬれや乱暴な取扱いを避ける。

## 15.適用法令

毒物及び劇物取締法	該当なし
化学兵器禁止法	該当なし
輸出貿易管理令	該当なし
労働安全衛生法	該当あり
ヒドラジーン水和物	法 第57条の2 通知対象物
ヒドラジーン水和物	基発第0331008号、基発第0331009号「安衛法28条第3項に基づく健康障害を防止するための指針」
(安衛法第28条第3項「技術上の指針の公表」)	
ヒドラジーン水和物	基発第341号 労働省通達(変異原性が認められた追加化学物質)
ヒドラジーン水和物	法 第57条 名称等を表示すべき有害物
トリエタノールアミン	法 第57条の2 通知対象物
N-メチル-2-ピロリドン	法 第57条 名称等を表示すべき有害物
N-メチル-2-ピロリドン	法 第57条の2 通知対象物
船舶安全法	該当あり

ヒドラジン-水和物	危告示 別表第1 毒物類
航空法 ヒドラジン-水和物	該当あり 爆告示 別表第1 毒物
港則法 ヒドラジン-水和物	該当あり 港危告示 別表 毒物類(毒物)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) ヒドラジン-水和物 ヒドラジン-水和物	該当あり 令別表第1の該当する号の番号 333 ヒドラジンとして該当する。 第一種 指定化学物質
化審法 ヒドラジン-水和物 ヒドラジン-水和物 ん)	該当あり 旧法 第三種監視化学物(但し、「旧法」の記載がある項目については、現行の化審法に該当しません) 旧法 第二種監視化学物(但し、「旧法」の記載がある項目については、現行の化審法に該当しませ
ヒドラジン-水和物 トリエタノールアミン N-メチル-2-ピロリドン	法 第2条第5項 優先評価化学物質 通し番号 2 ヒドラジンとして該当する。 法 第2条第5項 優先評価化学物質 通し番号 108 法 第2条第5項 優先評価化学物質 通し番号 136
水質汚濁防止法 ヒドラジン-水和物 亜硝酸ナトリウム	該当あり 令第三条の三 指定物質 ヒドラジンとして該当 令第二条 有害物質 亜硝酸化合物として該当
海洋汚染防止法 ジエチレングリコールモノメチルエーテル N-メチル-2-ピロリドン 亜硝酸ナトリウム トリエタノールアミン	該当あり 法 第3条第3号 有害液体物質 Z類物質 法 第3条第3号 有害液体物質 Y類物質 法 第3条第3号 有害液体物質 Y類物質 法 第3条第3号 有害液体物質 Z類物質
消防法 その他	該当なし PRTR法該当のヒドラジン(CAS No.302-01-2)としての含有率は 1.5%である。

## 16.その他の情報

記載内容は、本シート作成時に入手可能な資料、情報、データに基づいておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証を成すものではありません。

この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

本シートは、日本国内法規を基準に作成したものです。

以上